Color Science Association of Japan

X4-5

20世紀前半に見られる英語の新色名の表現特性

Expressional Characteristics of New English Color Names Appearing in the First Half of the 20th Century

吉村　耕治　Koji Yoshimura　関西外国語大学短大部　Kansai Gaidai College

キーワード：色名、色彩表現、共感覚、歴史、意外性
Keywords: color names, color expressions, synesthesia, history, unexpectedness

1. はじめに

英語の書き物が残っている 700 年頃から現代に至るまで、いつの時代でも新色名が創造されてきた。色彩には、人間が現実生活を送る上で必要な情報が内包されており、色名にはそれぞれの時代の人々の生活、社会、文化が反映している。本稿は、20 世紀前半の新色名の表現特性と、その文化を考察することを目標にしている。

実際の色を人間が概念化した名前は色名と呼ばれ、色名も含め、色を言語化した表現は色彩表現と呼ばれている。本稿の基本資料として、Maerz and Paul (1930, 2nd ed. 1950) *A Dictionary of Color* と *OED* (2nd ed.) を用いた。以下における大文字の色名は、慣用色名を示す。

2. 1901-30 年の新色名の表現特性

2a) 織物産業で用いられている色名：

飲み物に由来する色名：1892 年が初出の *absinthe* はニガヨモギから作られ、*absinthe green* は緑を帯びたキュール酒に由来するが、20 世紀には *absinthe yellow* (1926;アブサン酒イエロー)という顔料が生まれている。

食べ物に由来する色名：*ambrosia* (1924;〔ギリシャ神話で、不老不死の〕神々の食べ物の色、淡紅色)

植物に由来する色名：*acorn* (1902; どんぐり色), *alfalfa* (1918;〔1845 年初出の語で、近東原産のマメ科の牧草〕ムラサキウマゴヤシ色), *ALMOND* (1920;〔西アジア原産の落葉高木〕アーモンド、薄い黄褐色), *amaryllis* (1918; アマリリス色), *antique fuchsia* (1928; くすんだフクシア色〔赤紫色〕), *arbutus* (1920;〔常緑低木の〕イワツツジ色), *arrowwood* (1928;〔1709 年の初出；枝を使って矢を作る低木〕灰色がかった黄色)

動物に由来する色名：*Airedale* (1924;〔英国産の大型犬〕エアデールテリア色), *antelope* (19161;〔主にアフリカ産のウシ科の哺乳類〕アンテロープ色), *aphrodite* (1924;〔北米産のタチハチョウ科の昆虫〕ヒョウモンチョウ色), *argali* (1925;〔中央アジア産の野生の羊〕アルガリ〔モンゴル語「雌のオオツノ羊」の意より〕)

自然現象に由来する色名：*afterglow* (1921; 夕焼け色)

地名に由来する色名：*Aden* (1925;〔イエメン南西部の港市〕アデン色、やや灰味の青), *Adriatic* (1920; アドリア海；原義「黒い町」), *Afghan* (1927; アフガニスタン), *Afghan red* (1928), *African* (1918; アフリカ(先住民族)色), *African brown* (1927), *ALGERIAN* (1927;〔アフリカ北西部の共和国；1962 年にフランスから独立〕アルジェリア、クリーム色), *Algerian red* (1925), *Alpine* (1919; アルプス山脈色), *Alpine green* (1925), *Andorra* (1927;〔地名〕アンドラ、褐色系の色), *Annapolis* (1918;〔米国港市〕アナポリス、青色系), *Arabian red* (1928;〔酸化第二鉄の赤色顔料、濃い reddish brown〕アラビアンレッド), *Aragon* (1927;〔スペイン北東部の地方〕アラゴン、褐色系), *Arcadian green* (1928;〔理想的田園を表す古代ギリシャの Peloponnesus 半島の高原に因む〕アルカディア風の牧歌的緑), *Argentina* (1927; アルゼンチン、暗い褐色系), *Arizona* (1917;〔米国南西部の州〕アリゾナ、黄色を帯びたベージュ色)

川の名に由来する色名：*Amazon* (1924;〔世界最大の流域をもつ南米の大河〕アマゾン、緑色系), *Arno blue* (1928;〔イタリア中部の川〕アルノー川の青、青緑系)

人名、種族名に由来する色名：*Akbar* (1922;〔インドのムガール帝国第 3 代皇帝〕アクバル、肌の赤色), *Algonquin* (1921;〔北米先住民の種族〕アルゴンキン族色), *Apache* (1922;〔北米先住民の種族〕アパッチ族色)

宮殿、城、修道院、要塞、砦に由来する色名：*abbey* (1921; 大修道院、薄い赤紫系の色), *Alamo* (1922;〔フランシスコ派修道会の伝道所；1836 年にメキシコ軍に包囲された〕アラモ、褐色系の色), *Alcazar* (1923;〔スペインの Seville にあるムーア人の王宮〕アルカサール宮殿), *Alhambra* (1923;〔スペインの Granada 市にあるムーア人の古城〕アルハンブラ宮殿、緑色系の色)

レンガ、泥に由来する色名：*adobe* (1922;〔日干しレンガ、川に堆積した黄色の沈泥〕アドービ色)

金属元素や鉱物に由来する色名：*aluminium* (1916; アルミニウム色), *antique gold* (1924; くすんだ金色), *antique ruby* (1926), *AQUAGREEN* (1927; 薄い緑青色の緑柱石を表す *aquamarine* は 1598 年の初出)

空、大気に由来する色名：*aero* (1920; 空中、航空機、

NII-Electronic Library Service

Color Science Association of Japan

薄青色), *air force blue* (1918;〔1917年が初出の〕英国空軍のブルー), *airway* (1928; 航空路、空の青色)

歴史、装飾様式に関連する語に由来する色名：*amarna* (1923;〔古代エジプト史で1375-60年〕アマルナ時代色、暗い緑色), *Arabesque* (1925; アラベスク、〔動植物や幾何学的図形を連続させた〕アラビア風装飾様式、黄赤色)

服装用語に由来する色名：*ascot tan* (1926;〔1908年に英国でAscot tieと呼ばれるスカーフ状の幅広のネクタイが流行したことから〕アスコットタイの黄褐色)

抽象的な語（抽象名詞）に由来する色名：*AMERICAN BEAUTY* (1915; アメリカの美、深紅色のルビー色)

一種のことば遊びを利用した色名：「お守り、魔よけ」の宝石類を表す *amulet* (1923; 緑玉石の冴えた濃い緑), 「救急車」の意の *ambulance* (1918; ローズの茶色), 「弓のような飛び道具」を表す *artillery* (1918; 鮮紅色)

共感覚表現の色名：*arctic* (1920; 北極[極寒]色)という色名が成立した後に、*arctic blue* (1926; 凍えるような青)という「触角＋視覚」の共感覚表現の色名も存在する。

2b) 芸術家や塗装工が用いる顔料や塗料の名前：*air blue* (顔料の *azurite blue*〔アズライトブルー〕の意; 1924; 青緑色)〔*air blue* をMaerz and Paulは1924年の初出としているが、*OED* は1890年と考えている。〕

2c) アメリカの（あらかじめ材料を調合した）ペイント名：*antique brass* (1913; くすんだ真鍮色), *Armenian red* (1902;〔アジア西部の古代国家、現在のトルコとイランに国境を接する〕アルメニアの赤)

2d) イギリスの（あらかじめ材料を調合した）ペイント名：*Asiatic bronze* (1902; アジアのブロンド[青銅]色)

2e) Ridgway's *Color Standards and Color Nomenclature*: *Ackermann's green* (1912; Rudolph Ackermann〔1764-1834; ドイツ生まれの出版者〕アッカーマンのグリーン), *aconite violet* (1905;〔植物の〕トリカブトのスミレ[青紫]色), *ageratum violet* (1912;〔キク科植物〕カッコウアザミのスミレ[青紫]色), *amaranth pink* (1905;〔1690年の初出の観葉植物、アマランス、暗い赤紫色〕アマランスのピンク), *amaranth purple* (1912), *Andover green* (1912;〔米国Massachusetts州北東部の都市〕アンドーヴァーのグリーン), *antique brown* (1912; くすんだ褐色), *argyle purple* (1912;〔編み物でダイヤ形色模様〕アーガイルの紫色, *army brown* (1912; 陸軍の褐色), *artemisia green* (1912;〔キク科ヨモギ属の植物〕ヨモギのグリーン)〔複合色彩語が多い。〕

2f) Oberthür and Dauthenay's *Répertoire de Couleurs* (1905): *ageratum blue* (flossflower; 1905;〔青か白の花をつけるキク科植物〕カッコウアザミ青)

2g) その他：*Alice blue* (1902;〔アメリカの大統領Th. Roosevelt の娘、Alice Roosevelt の名前に由来する色名；*OED* では1921年の初出と考えられている〕薄い灰色を帯びた青色、淡青色), *American green* (1905), *antique red* (1905), *Arabian brown* (1902), *artichoke green* (1905;〔キク科の多年草〕アーティチョークの緑)

3. 1931-50年の新色名の表現特性

3a) 織物産業で用いられている色名：*Amberlite* (1937;〔米国のRohm & Haas社製のイオン交換樹脂の商標〕アンバーライト、淡褐色), *apple red* (1933; リンゴの赤), *ARBUTUS PINK* (1936;〔ツツジ科の常緑低木〕イワツツジのピンク色), *BLUE FLOWER* (1941; 青花色), *BLUE SPURUCE* (1923;〔北米西部産のトウヒ、観賞用、葉は青緑色〕ブンゲンストーヒ、青緑系)

3b) 家や庭に関連する色名：*adobe tan* (1943;〔1922年初出の *adobe* から派生〕アドービ色の淡褐色), *Aegean mist* (1945; エーゲ海の霧の色), *Amazon green* (1942), *Arras crimson* (1945;〔フランス北部の都市；14-15世紀の美しい絵模様の入ったつづれ織の生産で知られる〕アラス織の深紅色), *Athenian smoke* (1945;〔古代ギリシャ文明の中心地〕アテネの煙のような色、青み[茶色]がかった灰色), *atmospheric blue* (1947; 大気の青色), *Augusta peach* (1941;〔米国の地名〕オーガスタの桃色)

3c) その他：*AQUA* (1941; 水色、淡い緑青色)

4. おわりに

時代とともに新しい色名が生まれ、色名の意味の分化が生じている。豊かな季節感が反映している和名の色名に対して、20世紀前半の英語の新色名には、色名が生まれる源の語彙の多様性、色名の表現上の意外性と豊かな精神性に特徴がある。*antique fuchsia* (1928; くすんだ暗いフクシア色)のように、複合色彩語の第一要素に「古風な」の意の *antique* を用いた色名が20世紀初めに多く見られる。伝統のある都市や特色のある国の名前に由来する語を、複合語の第一要素に持つ色名も多い。そして、ルビーの深紅色に近い色を表す「アメリカの美」という意の *AMERICAN BEAUTY* (1915)や、絵画的な美しさを内包する「エーゲ海の霧の色」という意の *Aegean mist* (1945)、共感覚表現の「凍えるようなブルー」の意の *arctic blue* (1926) も用いられている。20世紀前半の色名の特徴は、表現上の意外な結びつきや、想像力を必要とする心理的意味の豊かさに特徴がある。

主要参考文献

Maerz, A. and M. Rea Paul (1930, 2nd ed. 1950) *A Dictionary of Color*. New York, Toronto and London: McGraw-Hill Book Company.

Oxford English Dictionary (2nd ed. 1989).

吉村耕治（1994, 1995）「*OED*（第2版）に現れた英語色彩語彙の歴史的変容（上下）」関西外国語大学『研究論集』60号、61号、1-30, 9-32。

吉村耕治（編著）（2004）『英語の感覚と表現—共感覚表現の魅力に迫る』東京：三修社。

NII-Electronic Library Service